

地域共生社会実現に向けた相談支援体制の在り方について

演題名：50文字以内

大阪 太郎

特定非営利活動法人 ○○○○

背景

大阪市都島区は人口約10万人の人口を抱え、高齢化率23.5%（2020年）、介護保険を利用している人が約6000人（2020年）、障がい者手帳を受給している人が約8000人（2020年）いる。その高齢者、障がい者の方々を支える支援者の体制に大きな違いがあることによって、支援困難なケース、必要なのに支援が行き届いていないケースなど様々な課題が生じてきている。

課題

高齢者を支える介護支援専門員（いわゆるケアマネジャー）の数は、事業所数が約50事業所あり、100名を超える方々が支援をしている。一方、障がい者を支える相談支援専門員は、事業所数が約10事業所で、人数も20名程度で支援をしており、高齢者と障がい者の相談支援体制には大きな開きがある。しかしながら、障がい者の方々が高齢化することで障がい福祉から介護保険へ制度を移管しないといけなかったり、8050問題に代表されるように1つの家庭の中で複数の支援者が関わらないと解決に結びつかないようなケースが増えている。そのため、ケアマネジャーと相談支援専門員が今まで以上に連携しながら体制を創って行くことが求められる。そこで、我々はケアマネジャーと相談支援専門員が共に学び・共に支えあうことで、支援者を孤立させないような取組を行っている。具体的には、事業所交流会、共通する課題についての研修会などである。こういった地道な取組の結果、介護保険と障がい福祉サービスの両方の制度を活用できる支援員が増えてきている。

取組

展望

まだまだ絶対的な数は足りないが、継続してネットワークを創ることで、結果的に高齢者も障がい者も必要な支援が受けられる共生社会が実現することを願っている。

抄録本文：800文字以内

大阪デイ～ケアにおける日常の活動における課題と工夫について

演題名：50文字以内

大阪太郎

就労移行支援施設 大阪デイ～ケア&ワーク

大阪には発達障害の就労移行支援施設が多くある。資格取得やコミュニケーショントレーニングなど、多種多様なプログラムを行っている施設が混在している。当施設では、特に〇〇に力を入れている。

当施設は大阪の北区に位置しており、成人発達障害の利用者が多く在籍している。利用場面を4つのステップに分類することで、利用者が自身の就労までの段階をイメージしやすいように工夫している。また、SSTなどの様々な手法を取り入れて就労場面への適応をより良くするための工夫を行っている。

このような日常の実践の中で、××の課題が生じることがあり、その課題解決のための取り組みとして、△△や～～～のような工夫を行っている。その結果、□□のような良い効果があるが、一方で、◇◇のような新たな課題が生じている。

本発表では、当施設における日常の取り組みと試行錯誤について報告したい。

抄録本文：800文字以内。文字数は少なくともOKですが、発表の概要が分かるように記載して下さい。